

## 2023年度以降に入学する方向け

### 環境放射能学専攻（博士前期課程）ディプロマ・ポリシー

環境放射能学専攻では、21世紀的諸課題の解決に向けて、環境放射能学の高度な専門性に加え、地球規模の視野と多角的な視点を持つ「共生のシステム科学」という枠組みの中で教育と研究を行い、環境放射能学を基盤に据えた新たなシステム科学の構築を志し、地域に貢献できる実践的な力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。博士前期課程では、学士課程で築いた基礎の上に、以下の7つの姿勢・知識・技能・能力の修得を求める。

1. 21世紀的課題に取り組むうえで必要とされるグローバルな視野とローカルな視点【グローバルな視野とローカルな視点】
2. 環境放射能学的素養の上に築く、自身の専門分野に関する高度な知識・技能【専門的知識・技能】
3. 実験・観察・分析に基づくデータを正當に読み解き、論理的に組み立て、科学的な主張を展開できる能力【論理的思考力・分析力・表現力】
4. エネルギーや環境課題の分野で環境放射能学から得られる成果を社会実装するにあたって関係する、政策、文化、心理等多角的な視点から、課題を捉え直そうとする姿勢【学際性、俯瞰性、課題発見力】
5. 専門的な知識・技能を具体的な課題解決に主体的・実践的に活かす能力【応用力、実践力、還元力】
6. 専門的な知識・技能や研究成果を異分野の専門家や非専門家に伝える能力【プレゼンテーション力、コミュニケーション力】
7. 異分野の専門家と協力して課題解決に取り組む能力【コーディネート力、マネジメント力、課題解決力】